

ベタニヤでの出来事、過越の食事の準備、過越の食事

文脈の確認

イエスの公生涯は終わり、弟子たちへの「オリーブ山での説教」も終わった。

今回の流れ

11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)
				+

1. オリーブ山での説教を終えると、イエスは弟子たちに、十字架の死を予告する。

 - (1) 十字架の予告としては4回目（マタイ 16:21、17:23、20:18）であるが、今回はじめて、十字架の日を特定する。
 - (2) 日没後は水曜日である。ここから数えて2日後に金曜日、15日「過越の祭」となる。
2. 水曜日の夜の出来事は、二つ。

 - (1) オリーブ山からベタニヤに戻り、シモンの家で夕食。マルタが給仕し、ラザロも食卓に。マリヤによる香油注ぎ、これがイエスの埋葬準備となる。
 - (2) マリヤによる香油注ぎに反対したユダは、イエスから叱責を受ける。夕食の席を抜けて、エルサレムの祭司長たちのもとへ。銀貨30枚でイエスを売ることを約束する。
3. 水曜日の夜明けから日没まで、そして木曜日の夜についての記事は、ない。
4. 木曜日の夜明け、14日は過越の食事を準備する日。

 - (1) 羊の肉以外の食材を用意する。種なしパン（マツァ）、苦菜（マロール）、野菜（カルパス）、くるみとリンゴを混ぜたもの（ハロセット）、ぶどう酒など。
 - (2) 過越の小羊を神殿でささげ、肉を持って帰る。14日の午後3時から6時にかけて。
 - ① 小羊を神殿域でほふる。血を鉢で受け、その鉢をレビ人に渡す。
 - レビ人たちが祭壇の土台まで長い列を3つ作り、手渡しでその血を運ぶ。
 - 鉢の血を祭壇の土台の部分に注ぐ。
 - ② ほふった小羊をさばいて、祭壇で焼かれる部分をレビ人に渡し、過越の食事の食材となる部分を家に持って帰る。→ 小羊のロースト
5. 弟子たちが過越の食事の準備をする。場所は、あらかじめイエスが手配していた。
6. 日没後は金曜日15日である。イエスと弟子たちは過越の食事の席につく。

 - (1) 過越の食事（セデル）の手順は、中間時代（預言書マラキ以降の時代）に始まったとされる。
 - (2) それが今日まで継続している。式文は、ハガダーと呼ばれる。
 - (3) イエスと弟子たちは、ユダヤ人たちが今も行っている手順で過越の食事をした。

7. イエスと弟子たちの過越の食事、伝統的なユダヤの手順に沿う。

- (1) 食前のことば
- (2) 第一の杯 (感謝の杯) 【第二の杯 (裁きの杯)】
- (3) 洗足とユダの裏切りの予告①
- (4) カルパス (野菜) とユダの裏切りの予告②
- (5) 2枚目の種なしパン (マツツァ)
- (6) ハロセット (くるみとリンゴを混ぜたもの) とユダの裏切りの予告③
- (7) 第三の杯 (贖いの杯) と新しい契約
- (8) 偉大さに関する教え
- (9) ペテロの拒否の予告
- (10) ハレル (賛美) 【第四の杯 (賛美の杯)】

食
事

注：過越の食事の杯には4つあるが、そのうちの二つ【 】は記載されず。

聖書箇所

1. 十字架の予告 (マタイ 26 : 1~2)
2. エルサレムにて、指導者たちが相談 (26 : 3~5)
3. ベタニヤにて、シモンの家での夕食 (26 : 6~13、ヨハネ 12 : 2~8)
4. ユダが、ベタニヤからエルサレムへ。指導者たちと面会 (26 : 14~16)
5. 過越の食事の準備 (26 : 17~19)
6. 過越の食事：食事の席に着く [横になる] (ルカ 22 : 14)
 - (1) 食前の言葉 (ルカ 22 : 15~16)
 - (2) 第一の杯 (感謝の杯) (ルカ 22 : 17~18) 【第二の杯 (裁きの杯)】
 - (3) 洗足とユダの裏切りの予告① (ヨハネ 13 : 3~20)
 - (4) カルパス (野菜) とユダの裏切りの予告② (マルコ 14 : 18~21)
 - (5) 2枚目の種なしパン (マツツァ) (マルコ 14 : 22、ルカ 22 : 19)
 - (6) ハロセット (くるみとリンゴを混ぜたもの) とユダの裏切りの予告③
(ヨハネ 13 : 21~29、ユダは外出 13 : 30)
 - (7) 第三の杯 (贖いの杯) と新しい契約 (マタイ 26 : 27~29、マルコ 14 : 23~25、ルカ 22 : 20)
 - (8) 偉大さに関する教え (ルカ 22 : 24~30)
 - (9) ペテロの拒否の予告 (ルカ 22 : 31~38、ヨハネ 13 : 31~38)
 - (10) ハレル (賛美) 【第四の杯 (賛美の杯)】 (マタイ 26 : 30、マルコ 14 : 26)

本日の結論

1. 過越の食事＝神がイスラエルの民をエジプトから解放されたことを記念する (思い出す) ため
2. 主の晩餐 (I コリ 11 : 20) = 新しい契約による霊的解放を記念する (思い出す) ため
3. I コリ 11 : 23~26 「わたしを覚えてこれを行いなさい。」
 - (1) 主の死を告げ知らせる＝イエスが十字架上で為してくださったことを記念する (思い出す)
 - (2) 主が来られるまで (=再臨を待ち望む)